

EBM教育の革新を目指す国際シンポジウム

草の根EBM普及活動の現状と課題  
～EBM-Tokyo, pES clubの経験から～

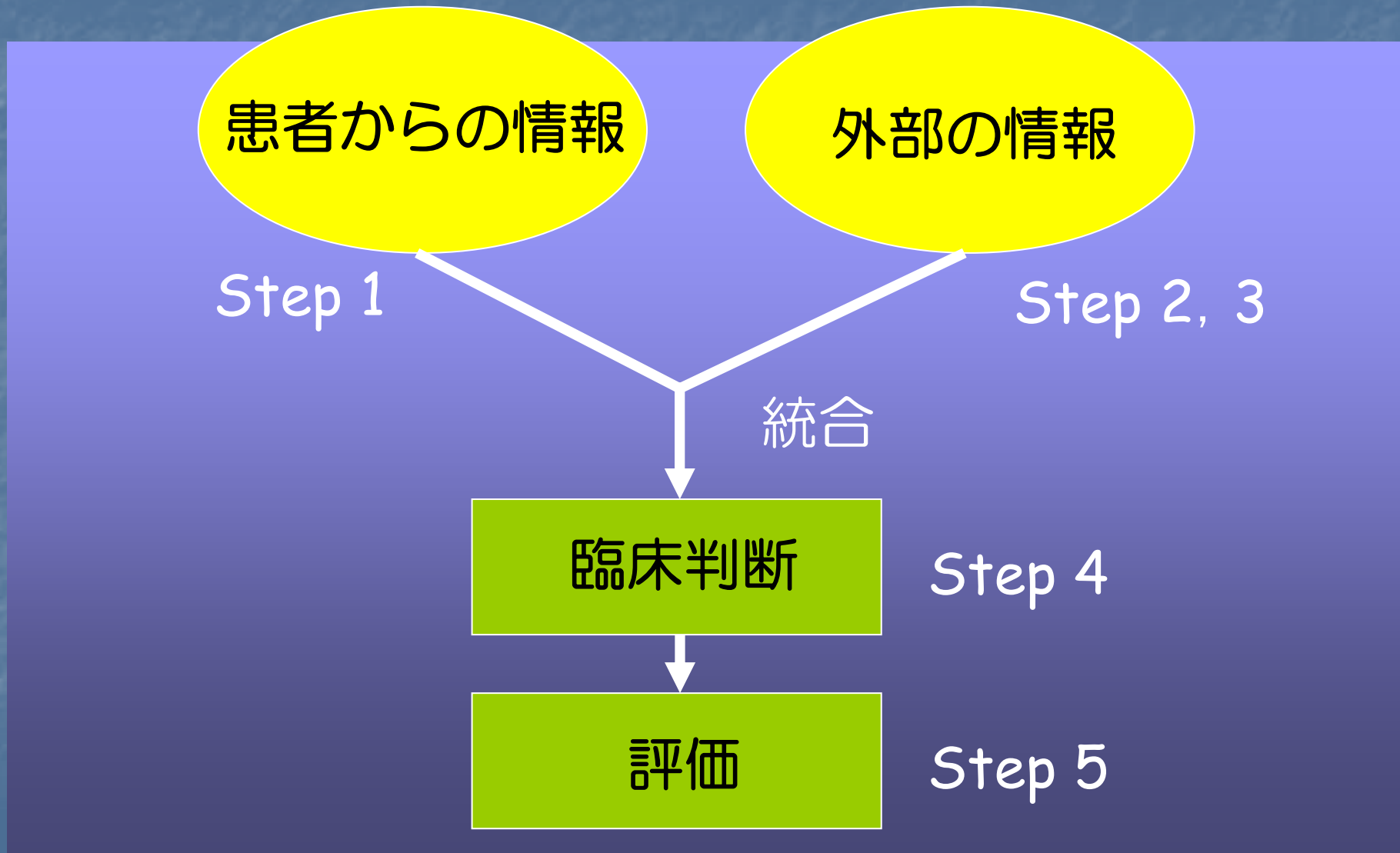
東京北社会保険病院 総合診療科

南郷 栄秀

# 自己紹介

- 1973年 東京生まれ
- 1998年 医学部卒業
- 1999年 EBMに出会う
- 2001年 EBMジャーナルクラブを始める
- 2002年 専門科から総合診療の道へ転向  
自ら学びながらEBM教育を始める
- 専門領域：総合診療，EBM，医学教育

# EBM : Evidence-Based Medicine



# EBMを実践するメリット

真のアウトカム：

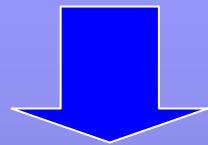
- 質の高い医療を提供できるようになる

代用のアウトカム：

- 論文が批判的に読めるようになる
- 情報検索の技術が上達する
- 患者や他の医療者とより濃密なコミュニケーションが取れるようになる

# EBM実践の成長過程

従来型・経験による診療



何らかのきっかけで  
EBMを知る

認知と驚きのフェーズ



EBM＝エビデンス  
との勘違い

エビデンス盲信のフェーズ

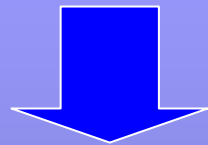


エビデンスと患者と  
環境の間で悩む

理想型EBM実践のフェーズ

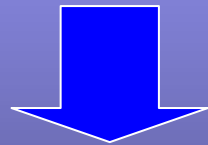
# EBM教育の位置づけ

従来型・経験による診療



認知と驚きのフェーズ

多くの大学(院)教育,  
EBM WS, セミナー



エビデンス盲信のフェーズ



理想型EBM実践のフェーズ

未開拓な部分

# 卒前EBM教育における現状

- 卒前教育においては、臨床疫学が公衆衛生や内科の講義の一部として触れられているのみであり、EBMが臨床判断のツールとして教えられていない
- OR, RR, NNT, 感度・特異度, 尤度比, p値, 95%信頼区間などのEBMの専門用語が、臨床上どのような意味を持つか教えられていない

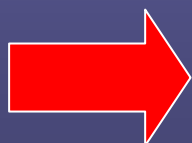
# 社会人向けEBM学習の現状

- 製薬会社や学会が主催する多くのEBMと銘打った講演会では、研究結果を歪めて紹介されており、エビデンスが誤解される
- 医療従事者を対象としてEBMの概念を紹介し、生涯学習の方法を共有するようなEBMワークショップは数少ない
- 継続して学習する仲間がいない



# EBMを普及させる意義

- 目の前の医療情報が正しくないかも知れないと気づき、自らその真偽を評価する必要があると認識できる
- 多業種によるチーム医療の必要性を認識できる
- 医療従事者が、忙しい臨床での生涯学習の仕方を習得できる



pES clubとEBM-Tokyo

# pES club

## The SPELL

The Square of Practicing EBM and Lifelong Learning

[English version is here.](#)

### Contents

- ◆ [EBMについて](#)  
    [一般向け](#)  
    [医療従事者向け](#)
- ◆ [各地のEBM勉強会紹介](#)
- ◆ [pES club](#)
- ◆ [EBM関連イベント](#)
- ◆ [資料集](#)
- ◆ [管理人プロフィール](#)
- ◆ [リンク集](#)
- ◆ [更新履歴](#)
- ◆ [アンケート](#)  
    ↑ご協力下さい!
- ◆ [お問い合わせ先](#)

## pES club

### pES clubとは？

pES clubはpost EBM Seminar clubの略で、EBMの手法を用いた学生主体のJournal club(勉強会)です。

毎年12月～翌々年3月の期間、毎月1回のペースで、休日の13時～20時に、都内の会場にて、EBMの手法を用いた勉強会を実施しています。月1回の例会での議論を補う目的や資料の配付のために、メーリングリストも活用しています。

内容は主に、臨床医学論文の読み方、文献検索の方法、臨床現場でのコミュニケーションの方法、勉強会のマネージメントの仕方などです。

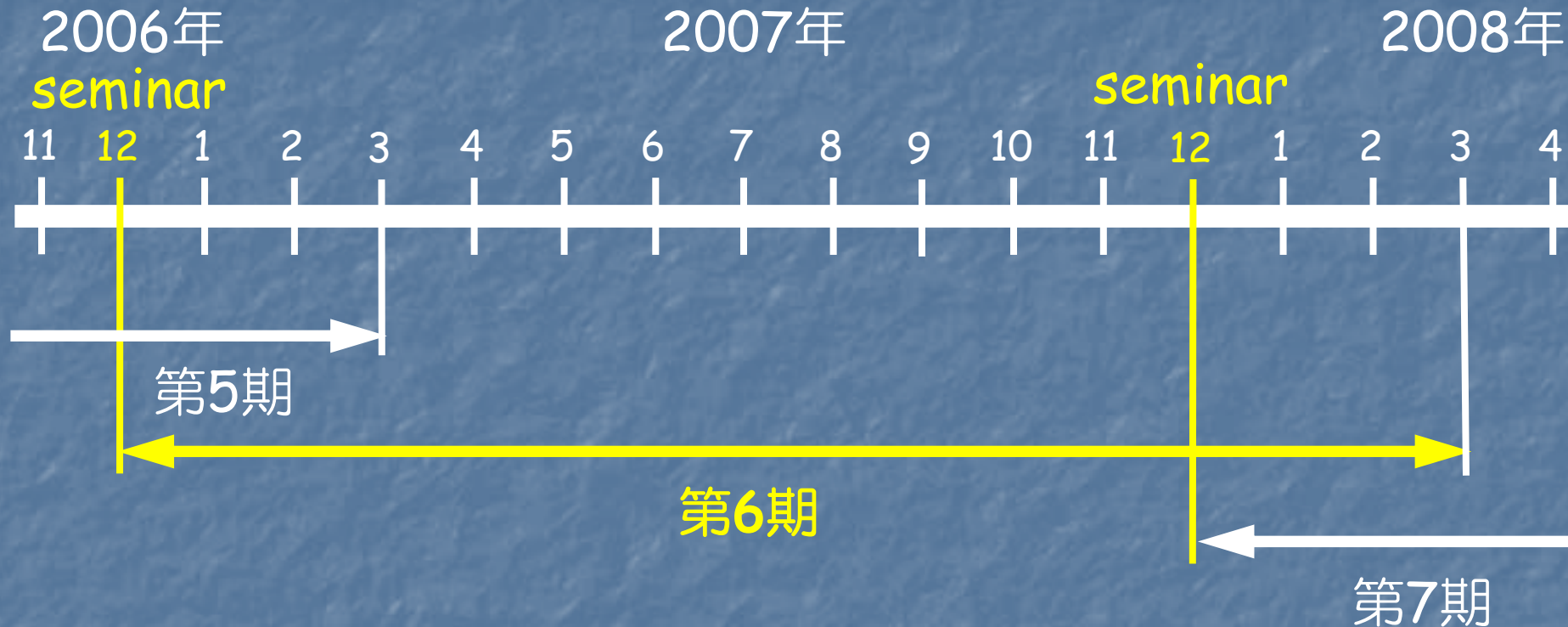
[pES clubの歴史](#)  
[現在の取り組み](#)  
[将来への展望](#)

[pES club概要2007年版\(PDFfile:124KB\)](#)

# pES club

- post EBM Seminar clubの略
- 2002年から始まった、学生を対象としたEBMを学ぶ勉強会
- 毎月1回の例会と年1回の合宿、15ヶ月間
- SGD (Small Group Discussion) 形式
- 医、歯、薬、看護の学生と一緒に学習
- 臨床現場でEBMを実践する多彩な講師陣

# pES club年間計画



- 1年でEBMの5つのステップが一通り実践できるようにするための基本的な知識と技術を養う

# 前期（1～5月）

- step3を中心に論文の読み方，批判的吟味の仕方，統計学的知識の習得を目指す
- いろいろな研究デザインの論文を扱う
  - 治療・予防（RCT, SR）
  - 診断（横断研究）
  - 予後・病因（コホート研究）
  - 害（症例対照研究）



# 中期（6～12月）

- step毎に集中してトレーニング
  - Step1大会：疑問の種類，PECO
  - Step2大会：PubMedと二次資料の使い方
  - Step3大会：批判的吟味
  - Step4大会：コミュニケーション，接遇
- 合宿：Training the Tutors Days (TTD)
- 忘年会：EBM実践大会

## 確定診断

★虫垂炎の可能性をより確実にしたい場合  
(無駄な検査を省きたい)  
→特異度が高い所見を見る

Psoas sign (感度16%、特異度95%)

事前確率50%のとき陽性的中率は80%となり、  
陽性適中率が高いので確定診断に使えるので  
す。





# 後期（1～3月）

- 次クールの前期を兼ねる
- 新しい学生を迎えて、チューターやレクチャーを担いながら自らが学ぶ
  - 批判的吟味能力
  - グループワークのマネージメント能力
  - プレゼンテーション能力
- 1年経って、自らの成長を実感できる

# EBM教育から人間教育へ

- 正しい日本語が使いこなせない学生が多い
- 社会人として成熟しておらず、このまま医療従事者になるのは不安
- 講師自身が勉強するために企画
  - メール，紹介状の書き方
  - 接遇（挨拶，電話対応，名刺作成・交換）
  - 論理的な話し方
  - プレゼンテーション

# これまでの実績（在籍者数）

	医学生	歯学生	薬学生	看護学生	合計
第1期（2002年度）	10				10
第2期（2003年度）	9(2)	5			14(2)
第3期（2004年度）	3(1)	7(4)	5		15(5)
第4期（2005年度）	3	5(1)		2	10(1)
第5期（2006年度）	7(1)	5(2)	5	3(1)	20(4)
第6期（2007年度）	10(4)	4	3	3(3)	20(7)
累計	34	19	13	4	70

※（ ）内は継続生数

# EBM-Tokyo

EBM-Tokyo

Welcome to  
*EBM-Tokyo homepage*

<http://ebm.umin.ne.jp>

*About us*

*Workshop info.* NEW

*Past works*

*Admission*

*Materials*

*Download*

*Links* NEW

このHPに関するお問い合わせは  
管理者まで

since 2003.02.19

Last updated: 05/07/2007 07:46:51



私達と一緒にEBMを実践しませんか？

2007/10/27

*Eishu NANAGO MD, Tokyo-kita Social Insurance Hospital*

20

# EBM-Tokyo

- 正しいEBMの普及と、各自のスキルアップを目的に2002年3月に発足
- 活動内容
  - 年2回のワークショップの企画・運営
  - ワークショップでのチューター、レクチャー
  - 各種勉強会へのチューター派遣
- メンバーは、現役の医療職やその周辺業種、学生のボランティア

# ワークショップ

- 年2回開催
- 初学者コースと中級者コースを設置
  - 初学者：論文の批判的吟味の方法を学習
  - 中級者：論文にとらわれず1つのテーマについて深く学習
- 8～10人のスモールグループ（SGD）形式
- 各グループにチューターが2名ついてディスカッションをサポート
- 終了後に共に学習する仲間が見つかる



# はじめてシート

はじめてトライアルシート 5.3

## Beginners' Training Sheet for Clinical Trial

ver.5.3 by last updated on August 26, 2007  
南郷 栄秀 Eishu NANGO. M.D.  
<http://spell.umin.jp>

このシートは初めて臨床試験の論文を読むためのものです。臨床試験の定義と論文の構造にも触れながら、論文を読む上でのポイントを解説しました。

なお、このシートに関する質問、改善点などは、制作者まで直接お願いします。また、制作者は著作権を保持し、無断転載を禁止します。再配布に制限はしないつもりですが、再配布する際は制作者までご一報ください。

### 0 治療法・予防法の効果を検証するための研究デザインとは？

#### 0-1) 臨床試験（介入試験）とは？

臨床試験 trial には幾つかの種類の研究デザインがあるが、いずれも、介入（ある治療法や予防法）の**治療効果、予防効果**や**比較的頻度の高い害**を調べるために用いられる。

**定義**：患者に対してある種の介入を加えてその効果・害をみるタイプの研究デザイン。コホート研究や症例対照研究などの観察研究に対して、介入研究とも呼ぶ。また、時間経過中に観察点が複数あり、縦断研究でもある。論文には **RCT(randomized controlled trial)** または **prospective clinical trial** と書かれていることが多い。

**目的**：①**治療効果、予防効果**を調べる  
②**害**を調べる

**分類**：臨床試験にはいくつかの研究デザインがある。

One arm trial：対象患者に何らかの介入を加えて効果をみるデザイン。対照群はおかない。



# 草の根EBM普及活動における課題

- 仲間が必要
  - 論文は数人で読んだ方が得るものが多い
  - ワークショップも一人ではできない
- 時間の確保が必要
- 継続するには高いモチベーションが必要
  - 報酬の問題
- 旬な話題を的確に捉えるセンスが必要

# 第7期 pES生募集

- 毎年12月にEBM Seminarを開催し、そこに参加した学生のうち、1年間の継続学習を希望する者を募集
- 今年は12月2日(日)、東京医科歯科大学にて
- 参加希望の学生はThe SPELLより申込みを

The SPELL <http://spell.umin.jp>

# 第12回 EBM workshop参加者募集

- 心肺蘇生時にマウスツーマウスは必要かをテーマとした英語の原著論文（NEJM 2000;342:1546, SOS-KANTO）を用いて、SGD形式でディスカッション
- 11月18日（日），東京医科歯科大学にて
- 参加希望の方はEBM-Tokyo HPより申込み

EBM-Tokyo HP <http://ebm.umin.ne.jp>

ご静聴ありがとうございました



2007/10/27

*Eishu NANAGO MD, Tokyo-kita Social Insurance Hospital*

28